厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）
分担研究報告書

移植に携わる医療者への啓発に関する研究（江川分担班）

研究分担者　江川　裕人　　浜松ろうさい病院　院長

研究要旨：
本分担班では、移植に携わる医療者への啓発に関する課題の抽出と解決策策定・実施を目的としている。移植医療の価値は「提供の希望に応える」と考え、その浸透を図っているが、それがどの程度認知されているのかについて把握することを目標としている。
R4 年度は，医療者への啓発（介入）として、日本移植学会主催のメディアワークショップを開催し、当日の講演内容の特集記事を雑誌『移植』に掲載することを試みた。また、その機会を捉えてメディアへの質問紙調査を行い、現状把握を試みた。これらの結果を雑誌『移植』に投稿した。
調査結果から、定期的なメディアへの情報提供とその内容、当事者とメディアとの橋渡し方法、学会開催時にその学会のトピックスをわかりやすくメディアへ解説する試みを検討することの必要性が示唆された。そこで、R5 年度から新人メディアを対象としたメディアワークショップを実施する予定である。
R5-6 年度は，分析から課題を抽出し，解決策を策定・実施する。また，調査から浮き彫りになった医療者の思い・考えを一般に発信する体制づくりを行い，一般からの信頼を高める。

A. 研究目的

本分担班では、移植に携わる医療者への啓発に関する課題の抽出と解決策策定・実施を目的としている。
移植医療の価値は「提供の希望に応える」と考え、その浸透に努めてきた。それがどの程度認知されているのかも含めた移植関連の医療者の態度・行動、意思表示の実態を明らかにすることを目標としている。
医療者への啓発には様々なアプローチ方法があるが、その一つに雑誌「移植」を介するものがある。R4年度は，日本移植学会主催でメディアワークショップを開催し、当日の講演内容の特集記事とともに掲載し、移植医に伝えていくことを目的とした。一方、メディアを介在する方法がある。そこで、メディアワークショップの機会を捉えてメディアへの定量調査を行い、現状把握を行うことを目的とした。

B. 研究方法

１）日本移植学会主催のメディアワークショップの開催とその結果の『移植』への投稿

2022年12月5日16時より東京ステーションコンファレンスにてメディアワークショップを開催した。
目的は、「移植医療」についての理解を得るとともに，「臓器提供」について共に考え，問題点の再考とその解決策への議論を深めることであった。
テーマは「人の尊厳と移植医療」である。有賀徹先生（労働健康安全機構　理事長，昭和大学名誉教授）の講演「救急医療，終末期医療と臓器提供」、町野朔先生（上智大学名誉教授）の講演
「法律と移植医療」に引き続き、移植医療・臓器提供について討論会，質疑応答を実施した。

２）メディアワークショップの参加者を対象とした質問紙調査

市民の移植医療への関心を惹起・持続するため、メディアから，移植医療に関する話題が継続して発信されることが重要である。本研究の調査目的は，メディアが「継続的に移植に関する記事を書く」という行動に関して，その行動規定因子を探索することである。また，その行動に資する環境整備のため，メディア・ワークショップのテーマや、日本移植学会から提供すべき情報について把握することである。

C. 研究結果

１）日本移植学会主催のメディアワークショップの開催とその結果の『移植』への投稿
「移植医療の哲学」を提供を含む移植医療に従事するすべての医療者に届けることにより、「行動変容」か「自己完成」に導く事を期待、雑誌『移植』に投稿した。

２）メディアワークショップの参加者を対象とした質問紙調査
メディア・ワークショップ終了時に行動科学に基づくアンケート調査を実施したところ、9名からの回答を得た。その結果、年間の記事執筆回数は1-3回が大半であった。メディアが「継続的に記事を書く」ための行動障壁として，ドナーやレシピエントなど当事者へのア

プローチの難しさ，リアルタイムのデータが手に入らないこと，自身の知識不足が挙げられた。一方，行動価値として，一般に現状を伝えること，移植医療に関心を持ってもらうこと，ドナーの増加につながることが多く挙げられた。また，メディアの行動動機としては,当事者の話を聞くことや,移植学会で様々な議論を聞くことが挙げられた。
本調査結果に関しても、雑誌『移植』に投稿した。

D. 考察

調査結果から，メディアが「継続的に記事を書く」ための行動障壁として，ドナーやレシピエントなど当事者へのアプローチの難しさ，リアルタイムのデータが手に入らないこと，知識不足が挙げられた。一方，移植医療についての記事を書くことに感じる意義や価値として，一般に現状を伝えること，移植医療に関心を持ってもらうこと，ドナーの増加につながることが多く挙げられた。また，動機としては，当事者の話や統計的データ，移植学会で様々な議論を聞くことが挙げられた。したがって、記者自身が知識や適切なデータを得て，当事者の声を聴き，現在の課題，課題解決への糸口を市民に伝えることで，市民が関心をもって意思表示などの行動を起こすことに寄与できると実感することが重要と考えられる。そのために，まず，移植学会が定期的にメディアへの情報提供を行うことが不可欠である。

E. 結論

質問紙調査結果、移植学会は、定期的なメディアへの情報提とその内容、当事者とメディアとの橋渡し方法、学会開催時にその学会のトピックスをわかりやすくメディアへ解説する試みを検討することの必要性が示唆された。
そこで、新人メディアを対象としたメディアワークショップを実施する予定である。
今後、医学部コアカリキュラムに移植と脳死が組入れることから，文部科学省の医学教育課と協力し医学生の移植教育コンテンツ作成を検討する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
   雑誌「移植」査読中　未定
2. 学会発表
   なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
   なし
2. 実用新案登録
   なし
3. その他
   なし